



Flash News

三重大学

第60号

目次

お知らせ&ご報告

- 「地域イノベーション学研究所」の設置を申請
- 「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」採択
- 伊賀拠点「サテライトキャンパス」の起工式
- 「野村證券・百五銀行・創業革新プロジェクト研究室」の設置
- 平成20年度にっぽん食育推進事業「教育ファームモデル実証地区」の選定

- 講演会「それってデートDVじゃない！？～楽しい恋愛をしよう～」
- 平成20年度「みえメディカル研究会総会」
- 三重大学第1回全学FD
- 学生安全対策セミナー
- 東紀州（紀南）広域防災拠点施設活動訓練に参加
- 知的財産表彰式

- 学務部から
- 教育学部から
- 医学部から

「地域イノベーション学研究所」の設置を申請

21世紀の産業分野では最先端技術の進歩が極めて速く、複数の技術分野が融合することで新事業が次々と生み出されています。本学ではこれらに対応すべく、ビジネス（産業）界での活躍を担うプロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材の養成に特化した教育を実施するため、基礎研究と研究マネジメントを指導する、実践的なサンドウィッチ教育を主体とした他には例のない「地域イノベーション学研究所」の設置申請書を文部科学省に提出しました。本研究科は、地域圏大学にとって重要な役割を担うものであり、また地方国立大学の重要な存在意義を示すものと考えます。

「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」採択

文部科学省「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」の「特色ある優れた産学官連携活動を推進する実施機関」に、創造開発研究センターと知的財産統括室が共同提案した事業プラン（責任者：奥村克純・研究担当理事）が採択されました。この事業は、今後5年間で3種類の「三重地域活性化プロジェクト」を設置し、その取り組みを通じた地域の中小企業の知的所有権を基にした成長を推進することで、産業振興で結果が出せる仕組みの定着を図るとともに、OJT教育によって同プロジェクトを企画・推進する人材「地域振興プロデューサー」を育成するものです。

伊賀拠点「サテライトキャンパス」の起工式



6月10日、伊賀市ゆめが丘において、「三重大学伊賀研究拠点の形成事業—サテライトキャンパスの創設と地域振興—」の拠点となる、研究施設の起工式が挙行され、豊田学長や伊賀市長ほか関係者の列席のもと、工事の安全を祈願しました。竣工は来年3月の予定です。三重大学は、この研究施設を拠点として、伊賀市と連携して市民の文化的啓発と地域企業との共同研究を推進し、地域活性化に貢献します(参考:フラッシュニュース55, 47, 43号)。

「野村證券・百五銀行・創業革新プロジェクト研究室」の設置

6月25日、本学と野村證券・百五銀行との間で協定書を取り交わしました。これは、野村證券と百五銀行からの委託を受けて、ベンチャー企業を支援する標記プロジェクト研究室を7月1日に設置するものです。研究室では、三重地域圏のメディカル、バイオ、アグリ等に関連するベンチャー等を本格的な成長へと推進する支援方法について研究し、その実践を通して地域圏産業界のみならず日本の産業界の発展に貢献します。また、本学の大学院生ならびにポスト・ドクター人材の実践教育に活用することで「産業界で活躍できる研究系人材」の養成を目指します。本学は、このような新たな取り組みを積極的に実施することで、社会貢献を果たして行きたいと考えています。写真左から 野村證券 木村執行役、豊田学長、百五銀行平石常務取締役



平成20年度にっぽん食育推進事業「教育ファームモデル実証地区」の選定

農林水産省の標記事業「教育ファームモデル実証地区」に本学のフィールドサイエンスセンター附帯施設農場が選定されました。この事業は、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解を深めることを目的として、学校などが一連の農作業等の体験の機会を提供する取り組みです。6月17日、附帯施設の農場に地元の豊ヶ丘小学校の児童（1年生63名+引率3名）が訪れ、ジャガイモの収穫や、サツマイモ、サトイモとジャガイモの違いのスケッチなどを行いました。



講演会「それってデートDVじゃない!?～楽しい恋愛をしよう～」

5月28日、三重県健康福祉部と本学の共催で、デートDVに関する標記講演会(講師:NPO法人「レジリエンス」中島幸子代表)が開催されました。DV(ドメスティック・バイオレンス)は、これまで主に夫婦間で行われる暴力の問題として知られていましたが、近年では、若者の恋人関係の中でも見られる問題(特にデートDVという言葉が使われます)として注目されてきました。講演では、講師自らのデートDV被害の体験談を交えながら、この問題の構造や実態について解説していただきました。当日は、約50名の学生が参加し、こうした身近な問題についての理解を深めるため、熱心に聴講していました。

平成20年度「みえメディカル研究会総会」

6月9日、講堂において標記総会が開催されました。約90名の参加があり、昨年度の活動報告・今年度の方針の説明と承認および2テーマの講演(「予防医学と健康スポーツ」信州大 能勢博教授、「みえ医療・健康・福祉産業クラスター」三重TLO 三田泰久クラスターマネージャー)と会員報告(志摩観光ホテル 宮崎英男料理長、附属病院 岩田加壽子管理栄養士)が行われました。本研究会(会長 奥村克純理事)は、三重県が平成14年度から展開しているメディカルバレー構想の一環として発足し、医療・健康・福祉分野の産学官民の研究者約750名が12の個別研究会(この内10で三重大教員が主査を務めています)で研究開発や技術開発を目指して活動しています。

三重大学第1回全学FD

6月9日、メディアホールにおいて、長崎大学 大学教育機能開発センターの長澤多代助教を迎えて「学生とのコミュニケーションの促進」というテーマで第1回全学FDが開催されました。長澤先生からは、授業評価の現状や問題点などについて説明をしていただいた後、授業改善のためのアンケートを学生とのコミュニケーションツールとして捉える効果的な授業評価のあり方について講演いただきました。その後、参加者の教員らと質疑応答が交わされました。

学生安全対策セミナー



6月11日、メディアホールにて、課外活動のリーダーや寮生などを対象にした標記セミナーが、津警察署地域課長と6名の女性署員を講師に開催されました。セミナーでは、女性を狙った犯罪やインターネット上の人権侵害の相談窓口の紹介、6月から施行された改正道路交通法についての講義がありました。また、護身術では、痴漢対策等の具体的な指導があり、参加者全員で実技に取り組みました。参加した72名の学生は、熱心に聞き入っていました。

東紀州(紀南)広域防災拠点施設活動訓練に参加

6月15日、本年3月に三重県が整備した東紀州広域防災拠点施設(熊野市)において初の活動訓練(三重県と周辺市町村が主催した大規模地震を想定した防災訓練)が行われ、附属病院の災害派遣医療チーム(DMAT)が海上保安庁のヘリコプターに搭乗し参加しました。訓練には、地元自治体・県・県警・自衛隊・海上保安庁など15の機関と7機のヘリコプターが参加し、災害発生時の負傷者・急病者の緊急搬送等について確認しました。



知的財産表彰式

6月16日、標記表彰式が挙行されました。この表彰式は、本学の知的財産活動にかかわる教職員等のインセンティブを高めることを目的に昨年度から行われているものです。平成19年度に本学への届出、出願、技術移転がなされた職務発明を対象に、知的財産最優秀出願賞:栗冠和郎教授・生物資源学研究所、知的財産最多届出賞:寺西克倫教授・生物資源学研究所、知的財産活用賞:藤川隆彦准教授・医学系研究科の3名が、豊田学長より表彰されました。なお、藤川准教授は昨年に引き続き2度目の受賞です。



お知らせ&ご報告

学務部から――

- ・学生なんでも相談室では、4月に『三重大生のための学生生活ハンドブック』を発行し新入生に配布しました。
- ・6月8日に「NHKロボコン大会」が行われ、本学のロボコンクラブ「M³RC」が技術賞を受賞しました。7月21日(月)午前8時35分からNHKで放送されます。

教育学部から――

教員免許状更新講習のホームページ(<http://www.edu.mie-u.ac.jp/menkyo/>)がオープンしました。

医学部から――

6月4日、講堂において解剖体感謝式が行われました。献体された方やそのご遺族に感謝の気持ちを捧げました。



投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしています。小林英雄(kobayashi@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページ(<http://www.mie-u.ac.jp>)でご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

